

令和3年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立碧山小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	漢字の書き取り(ころがって)	71.1	●50字以上の記述問題の正答率は2問とも東京都の平均正答率を7ポイント以上上回り、無回答率も4ポイント近く低かった。特に3(二)の友達の意見に対して理由をつけて反対意見を述べる問題では12ポイント上回った。日頃、互いの意見を交流し、質問し合ったり、自分の意見と比べてノートに書いたりする学習を積み重ねてきた成果だと考える。	●東京都の正答率より7ポイント以上低かった漢字の書き取りの問題は、中学年で習った漢字であった。中学年で習った漢字を復習する場面が不十分であり、計画的に取り組むことが必要である。 ●文章中の主語と述語の関係を抑える問題は東京都平均より5ポイント低かった。教科書の該当単元で学習したときだけではなく、折に触れて文法事項を指導していくようにすることが課題である。
	漢字の書き取り(つみ重ね)	50		
	主語として適切なものを選択する。	63.3		
	くわしくしている言葉として適切なものを選択する	41.1		
算数・数学	1(1)二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。	60	●集団の特徴をとらえるために、どのようなデータを集めるべきか判断することができるかを問う問題は、東京都平均より8ポイント以上高かった。グラフの読み取りについては、算数科だけではなく、社会科などでも丁寧に指導してきたこと、係活動などでアンケートを活用し、アンケート項目やその目的などを吟味した経験が生かされたと考える。 ●「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する」問題も、東京都平均より5ポイント以上高かった。日常生活の場面に即して判断する問題を得意とする傾向があり、このことを日常の指導に生かしていく。	●速さを求める問題では、数字が与えられた単純な計算問題の正答率は高かった。図を読み取ったり、複数の式で求めたりする問題の正答率は低かった。このことから、図を読み取り必要な情報を書き込んだり、何を求める式なのかを順を追って考えさせたりするなどの指導を丁寧に行っていくことが必要である。 ●直角三角形の面積を求める問題の正答率は、東京都平均より10ポイント近く下回っていた。高さの概念が分かっていないと、間違えて立式してしまう問題であり、公式の意味の理解を一層促していくことが必要である。
	1(2)500mを歩くのに7分間かかることを基に1000mを歩くのにかかる時間を書く。	80		
	2(1)直角三角形の面積を求める式と答えを書く。	43.3		